

近現代史におけるマルセイユの 都市変容についての一考察

2019年2月2日
(於 大阪市立大学)

水野延之
岩手大学人文社会科学部
URP特別研究員

本報告について

- ◆マルセイユ旧市街の景観史を見ることを通して、フランスや世界において「マルセイユ」という都市が有する諸問題を考察する。
- ◆マルセイユについての他国・他地域のイメージの問題。旧市街は特にマルセイユを表象している。多くは、この地区に住んでいない立場からの特定のイメージ(含マルセイユ人)。

本報告について

- ◆採用・不採用を問わず、マルセイユの都市案は歴史上数多くあり、それらは同都市の特定のイメージに結びついている。そして、マルセイユはその歴史を通じて、現在まで、変化・改造が続いている有数の都市である。
- ◆以下では、特に20世紀前半を中心に、マルセイユ都市案、都市論、景観論を見ていく。

Renvoy

- 1...Entrée du Port fermant à desf.
- 2...Abbaye St-Victor.
- 3...Vieux Arsenal.
- 4...Nouvel Arsenal.
- 5...Formes où l'on construit les Galeres.
- 6...Canal de Communication.
- 7...Salle de l'Opera.
- 8...Le Cours.
- 9...Porte de Noailles.
- 10...Porte des Reformés.
- 11...Porte des Chartreux.
- 12...Porte Royale.
- 13...Porte Galle.
- 14...Bateria pour l'exercis du Canon.
- 15...Maison de Ville.
- 16...Moulins a Vents.
- 17...La grande Eglise.
- 18...St-Laurent.
- 19...Les Dominiquains.
- 20...Les Augustins.
- 21...Les grande Carmes.
- 22...Carmes déchaussés.
- 23...Projet pour l'Eglise de St-Fariol.
- 24...L'Observance.
- 25...Les Trinitaires déchaussés.
- 26...Les Augustins Reformés.
- 27...Les petites Maries.
- 28...Les Carmelites.
- 29...Les Jeruites.
- 30...Les Capucins.
- 31...Les Feuillans.

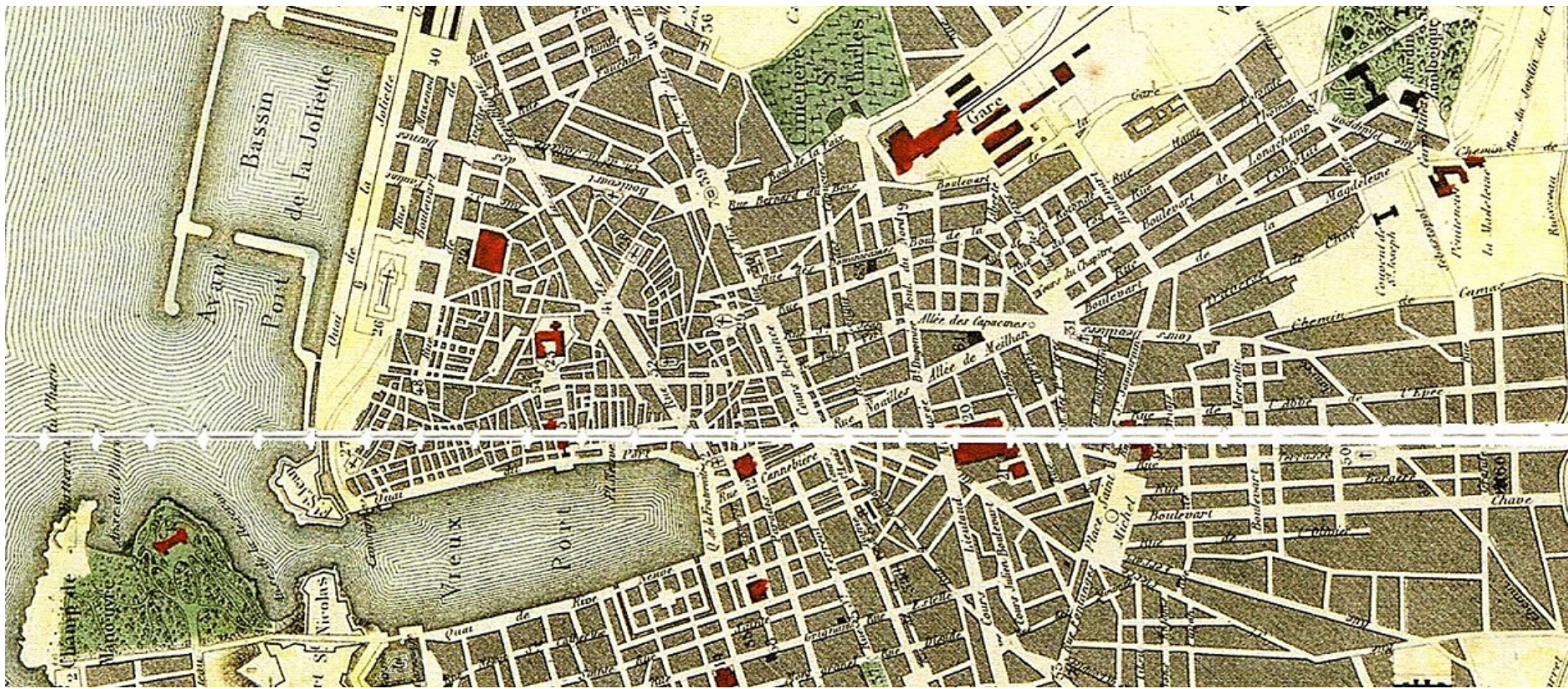
MARSEILLE
Ville considerable de
Provence fameux Port
sur la Mer Mediterranée
Par N. de Fer.



<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b531431523/f1.item> より1705年の都市図



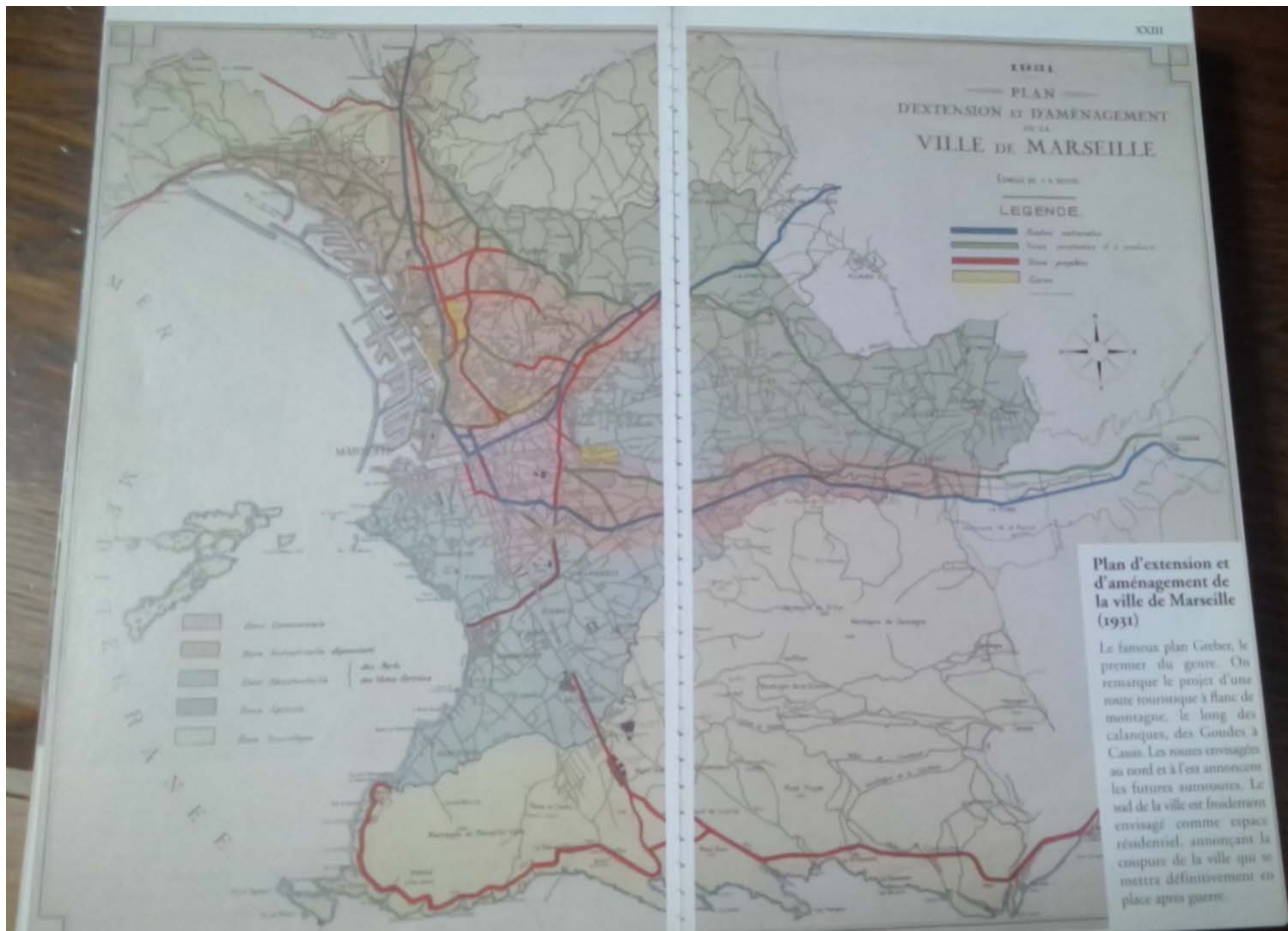
http://archivesplans.marseille.fr/archivesplans/plans/recherche_alpha_cl es.php?siecle=19 より1840年の都市図



Alèssi Dell'Umbria, *Histoire universelle de Marseille*, 2006, pp. XIV-XVより。1874年の都市図(報告者修正)

マルセイユ改造案の例

- ◆ Dell'Umbria(2006)より
- ◆ パリの建築家クレベールの案(1932年4月)。
- ◆ 市庁舎の拡大。市のサービスの分散を回避。
そのため、市庁舎を囲む全ての地区を解体。
旧市街に多くの通りを通す。
一部の地区は観光用に残す(漁師地区)。
- ◆ オスマンの都市改造の影響。交通を最優先。
- ◆ 1910年～30年におけるアメリカ旅行の影響も。
- ◆ マルセイユに関しては、中心街の住民を周辺に移動させようとした。



Dell'Umbria前掲書, pp. XXII-XXIIIより。クレベールの都市案(1931)

マルセイユ改造案の例(2)

- ◆カステルとバラールの案(1934年)
- ◆郊外を拡大し、中心をすっきりさせる。
- ◆旧市街の破壊。全て薙ぎ払い、無から新しい地区をつくる。
- ◆クレベールを引き継いでいるが、モダン建築運動の影響も。これは都市を機能の単なる総体とする。都市空間のゾーニング。地域の差異を捨象する、普遍的な都市と建築のモデル。

マルセイユ改造案の例(2)続き

- ◆カステルとバラールは、マルセイユはフランス文化の柱であることを望んだ。そして地中海型の都市であることを拒否した。フランスの植民地行政がアルジェを見る目と、マルセイユを見る目が等しかったため。
- ◆しかしデルンブリアによれば、アルジェもフランス型都市である。オスマン型都市。マルセイユも19世紀にオスマン型の影響を受けているため、両都市にはシンメトリーがある。

マルセイユ改造案(3)

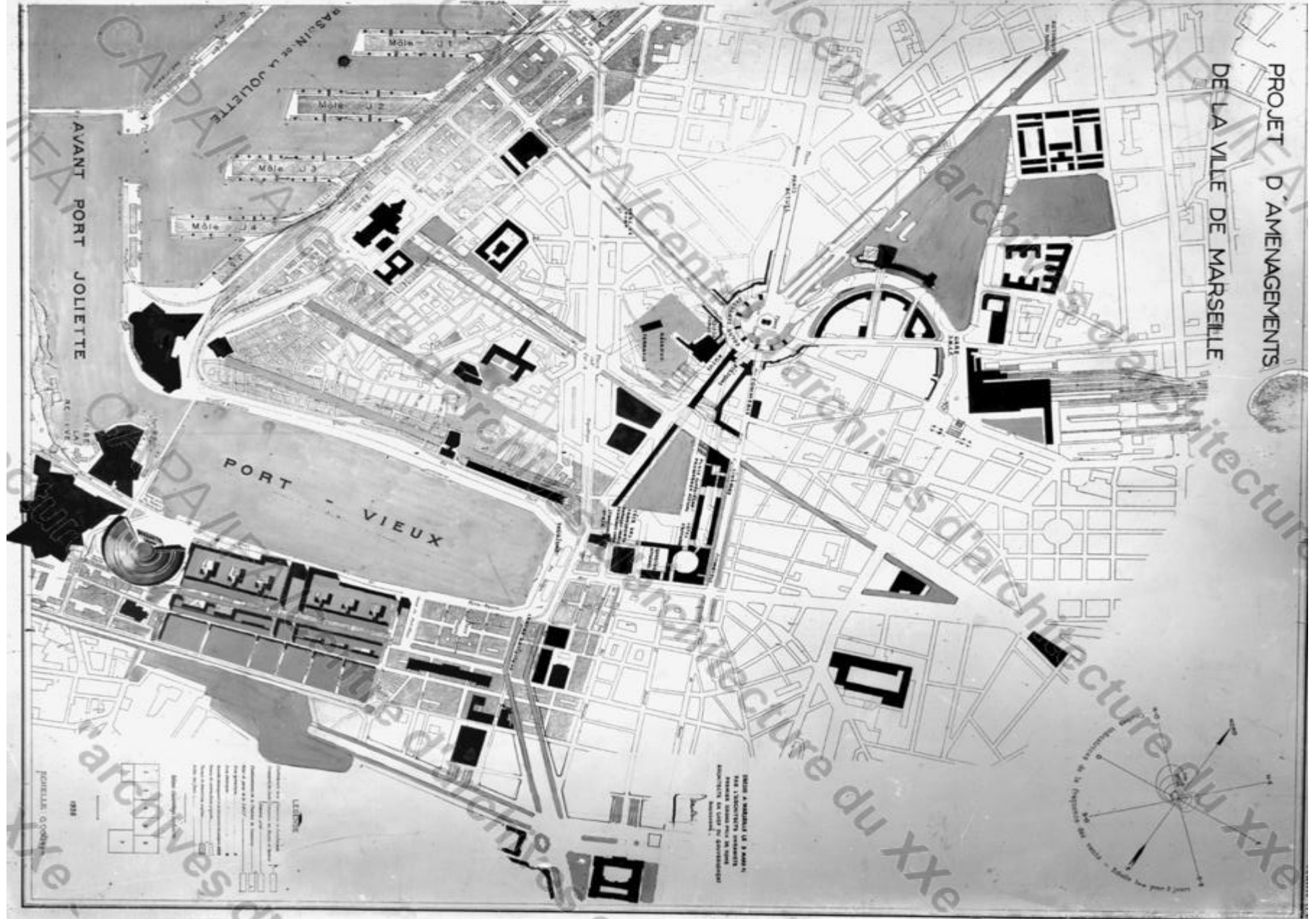
- ◆ 1938年10月にマルセイユで起きた大規模火災により、同市は政府の統制下に置かれた。第二次大戦が起きても、状態は改善せず。国のトップのペタンは、1940年12月に同市を訪問。フランスの再編はマルセイユのそれと結びついていると発言。1941年5月30日、ヴィシー政府はマルセイユ改造についての法を出す。パリの建築家ボードゥアンが都市計画の責任者に。



EUGÈNE BEAUDOUIN ET MARCEL LODS, UN DUO D'ARCHITECTES PIONNIERS - EXPOSITION AU MUS [HTTPS://WWW.AMC-ARCHI.COM/PHOTOS/EUGENE-BEAUDOUIN-ET-MARCEL-LODS-UN-DUO-D-ARCHITECTES-PIONNIERS-EXPOSITION-AU-MUS,7756/CITE-DE-LA-MUETTE-EUGENE-BE.1](https://www.amc-archi.com/photos/eugene-beaudouin-et-marcel-lods-un-duo-d-architectes-pionniers-exposition-au-mus,7756/cite-de-la-muette-eugene-be.1) より。左がボードゥアン

マルセイユの改造案(3)続き

- ◆ボードウアンの案(1941-42)
- ◆クレベール、カステルとバラールの案の再考。
- ◆「非衛生的な地区を清潔にする。そして中心街の人口密度を減少させる」。
- ◆交通の要請に対応する新たな道路のネットワークを組織する。オートモビルの距離と速度に対応できる都市にする。
- ◆初めてマルセイユの都市空間が、街を貫通する高速道路のシステムによって解釈されるようになった。



https://archiwebture.citedelarchitecture.fr/fonds/FRAPN02_BEAUD/inventaire/vignette/document-2327 より、ボードウアンのマルセイユ都市図案(1941-42)

マルセイユの改造案(3)続き

- ◆ボードゥアンのマルセイユ景観論。
- ◆骨組みの荘厳さ・モニュメンタルな可能性と、そこにある都市の凡庸さのコントラスト。
どのような素材もこの都市のマークとならず、建築的な魅力もなく、この都市に、商業の中心にふさわしいモニュメンタルな特徴を付与する建造物はとても少ない。
- ◆デルンブリアによれば、ボードゥアンは、バロック時代から引き継がれているマルセイユの建築的遺産を、「モニュメンタルな可能性」の名の下に、凡庸なものとして決めつけている。植民地主義者の論理。

マルセイユの改造案(3)続き

- ◆ボードゥアンの案のその他の特徴。
- ◆有毒な煙やガスを居住地域から離すため、居住ゾーンと工業ゾーンを分離する。間には緑を植えて居住ゾーンを守る。
- ◆デルンブリアによれば、ゾーニングの結果、必然的に生じた自動車交通の増加は、工業と同程度の「有毒な煙やガス」を居住ゾーンに拡散させた。(ただ、ボードゥアン案は採用されなかった。)

ドイツ占領軍のマルセイユ観

- ◆ Kitson(2002)より。占領期(1942年11月～44年8月)のドイツ軍によるイメージ。
- ◆ 国際的な犯罪の巣窟
 - ヨーロッパの潰瘍
 - フランスのハンブルク

フランスにおけるマルセイユのイメージ

- ◆マルセイユはフランスにおいても、疑惑の目で見られることが多かった。ルイ14世はフロンドの乱に参加した罰として、1660年にサン・ニコラ城塞とサン・ジャン城塞を監視のため建てた。

フランスにおけるマルセイユのイメージ(2)

- ◆ フランス革命期には、マルセイユ人はジロンド派を支持し、ジャコバン派と対立した。ジャコバン軍に敗北したことで、マルセイユは名前を取られ、3か月間は「名無しの都市(*la ville sans nom*)」となった。
- ◆ 公会代表のフレロンは、湾にある反革命が疑われる数多くの建物の破壊を命じた。そしてマルセイユ人たちは、全住民を移動させ、北部の人々と交わらせなければ永遠に矯正不可能である、と述べた。

フランスにおけるマルセイユのイメージ(3)

- ◆ 1934年にユーゴスラヴィアのアレクサンダル1世がカヌビエール通りで暗殺された。1930年代には路上で乱闘がよく起きていたため、マルセイユはヨーロッパのシカゴであると評された。
- ◆ 大量の難民が同都市に来ていたため、ファシスト・ライターのリュシアン・ルバテは「ユダヤ都市マルセイユ(Marseille la Juive)」というニックネームを付けた。

マルセイユ旧市街のイメージ

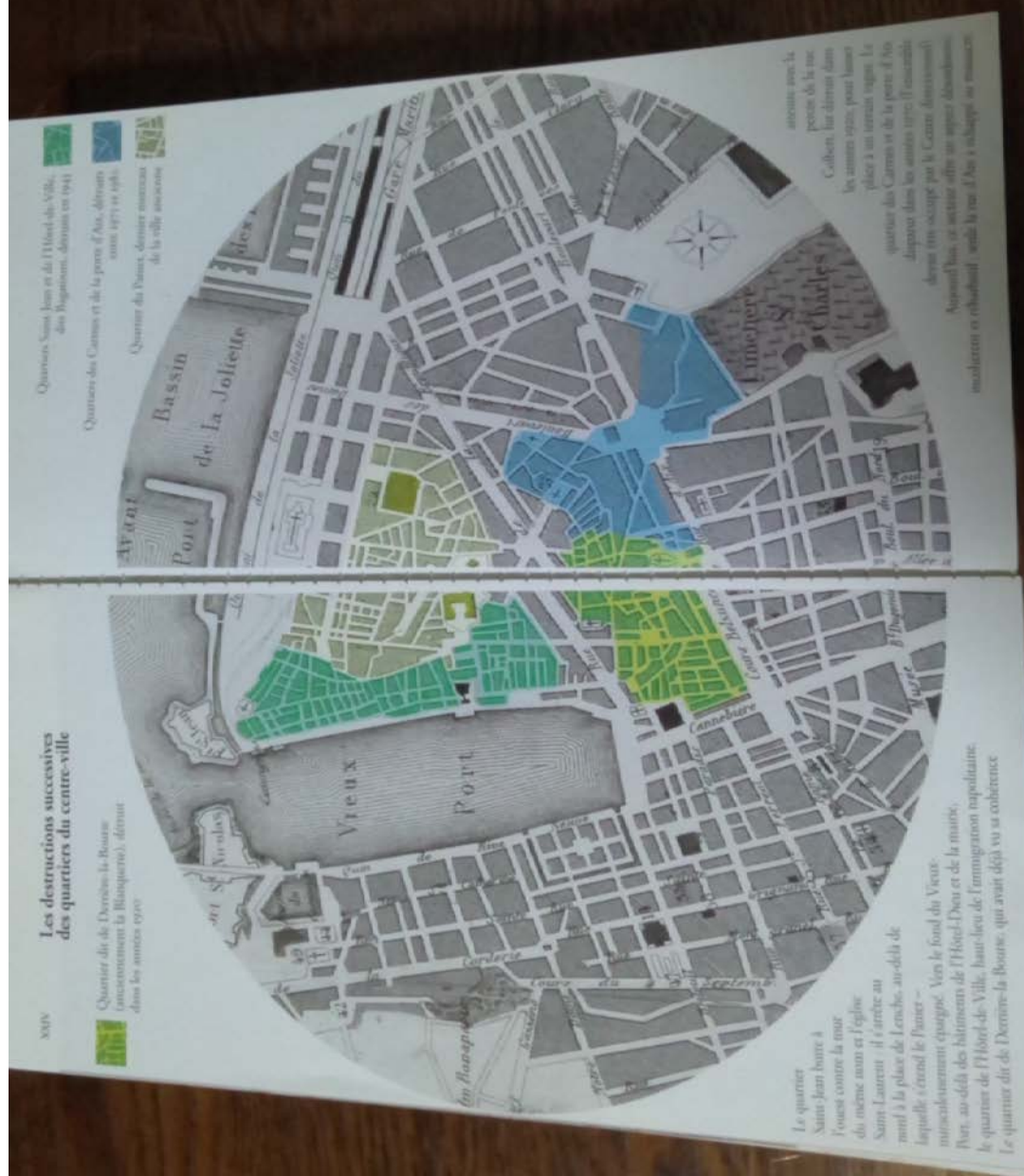
- ◆フランスとドイツによる批判は特に市庁舎地区(quartier de l' hôtel de ville)に向けられていた。
旧市街地(Vieux Quartier)
ナポリ人地区(quartiers napolitains)
- ◆歴史は古く、紀元前600年頃にまで遡る。
- ◆低所得者層が居住。
- ◆イタリア系、コルシカ系。

マルセイユ旧市街のイメージ(2)

- ◆ キトソンによれば、ルイ・ブランというとある作家は旧市街の以下の点を指摘。
- ◆ 騒音と臭いの独特さ。
- ◆ 通りはかろうじて3メートルの幅。
- ◆ 自動車運転手のフラストレーション。
- ◆ ピザ、揚菓子、理髪屋の安い香水の匂い。
- ◆ 通りの上では、建物の間にロープがわたされ、洗濯物が祭の旗のように翻る。
- ◆ ブラック・マーケット

マルセイユ旧市街のイメージ(3)

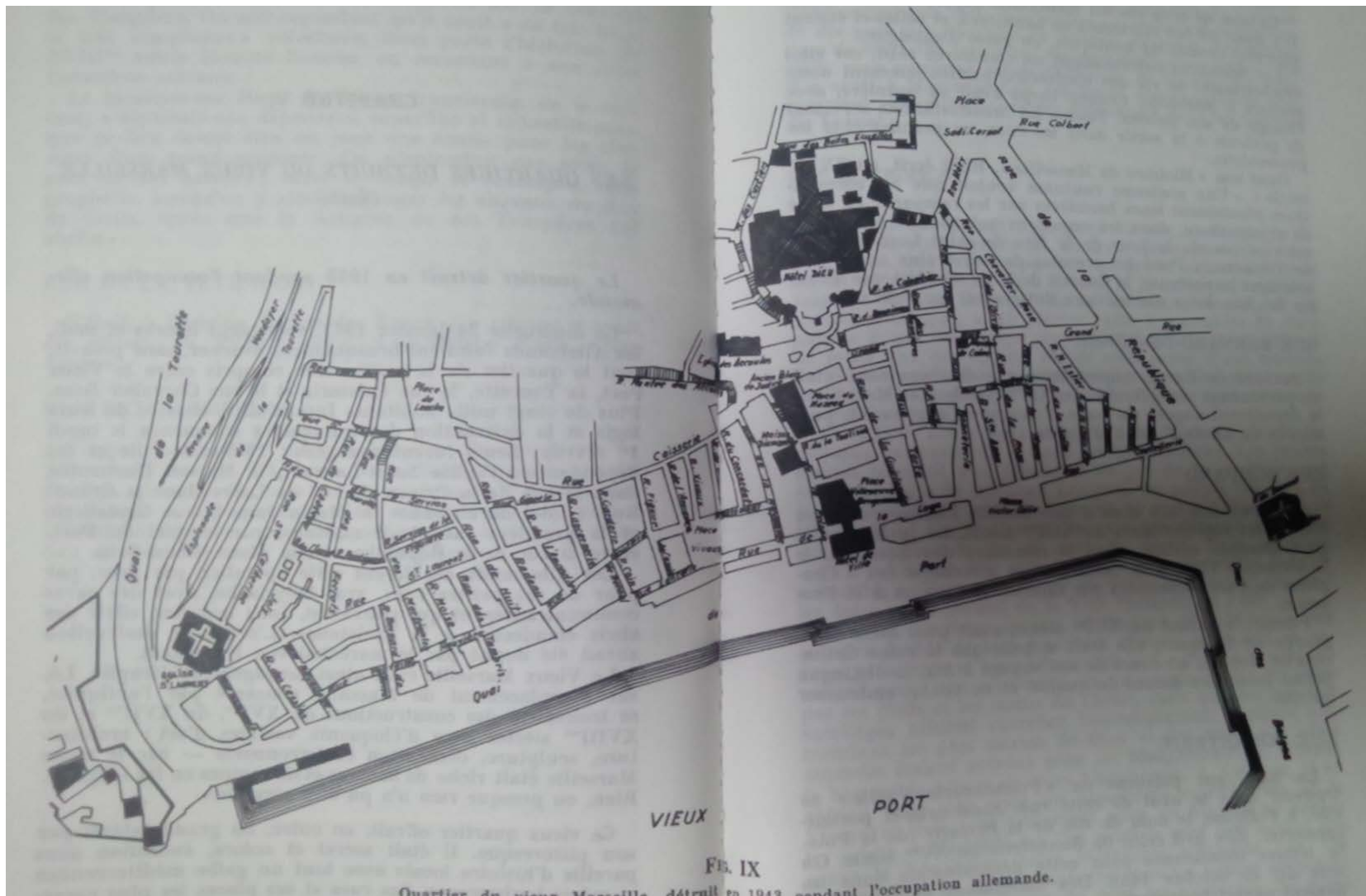
- ◆フランス側の旧市街への蔑視は、ドイツ側の偏見と通じている。ナチスの権威は、この地区の狭い通りは、路上での戦闘のための舞台を形成しうること、反逆者たちは古い建物を相互にリンクさせる秘密の地下通路を利用して皆とても簡単に逃走できること、ドイツの脱走兵たちがここにシェルターを見出すこと、を恐れる。



Dell'Umbria前掲書, pp. XXIV-XXVより。旧港北岸の地区が、ドイツの占領軍に破壊された地区。



同前。報告者による拡大図。1,482の建物が破壊された。



André Bouyala d'Arnaud, *Evocation du vieux Marseille*, 1959=2011, pp. 152-153より。ドイツの占領軍に破壊された地区。少なくとも55の通りが失われた。



Lundi 1er février 1943, le Génie de l'armée allemande dépose les charges d'explosif.



La première explosion
(vue du pont transbordeur)

La démolition des vieux quartier de Marseille

http://desinroc.free.fr/vieux_quartier/demolition.html より。左は占領軍による爆破前(1943年2月1日。爆破は19日まで続く)。右は最初の爆破。



前掲サイトより。爆破後。

結論および今後の展望

結論

- ◆マルセイユの都市改造案は、中央集権、地方分権、連邦主義、植民地主義、新自由主義といった諸問題と結びついている。
- ◆マルセイユの都市は現在も変化を続けている。

展望

- ◆マルセイユの都市の変化を現在まで追う。
- ◆ボードゥアンのその他の都市計画を調査する。
特にヴェトナムのサイゴン(現ホーチミン)、イランのイスファハーン、南アフリカのケープタウン。

出典

Alèssi Dell'Umbria, *Histoire universelle de Marseille*, 2006.

André Bouyala d'Arnaud, *Evocation du vieux Marseille*, 1959=2011

Simon Kitson, “French Police, German Troops and the destruction of the old districts of Marseille, 1943”, in Louis Knafla, *Policing and war in Europe*, 2002, pp. 133–145.